

兵庫県三木市でオオヒョウタンゴミムシを採集

吉水 敏城

筆者は、兵庫県三木市でオオヒョウタンゴミムシ *Scarites sulcatus* を採集しているのここに報告する。



1ex. (写真1), 兵庫県三木市別所町西這田 美囊川 別所橋付近 alt. 20-30m, 15. VIII. 2008, at light

本種は、海岸や河原の砂地に生息する大顎が鋭い大型のゴミムシである。また、兵庫県版レッドデータブック 2003 では、A ランクに、環境省版レッドデータブックでは準絶滅危惧となっている。そのことから、大変珍しいもので、兵庫県の内陸部での発見はこれまで

ないものと思われる。筆者は、自由研究のため自宅付近の街灯での灯火採集をしていた際に、街灯から少し離れた砂利の上で本種を発見した。おそらく、街灯に飛来したものと思われる。時刻は午後9時30分ごろだった。同時に採集された昆虫では、ヒゲコガネが特に多く、50 個体以上が観察された。次に多かったのが、コガムシとヒメガムシである。その他は、ゴミムシ類が2、3 個体しか採集できなかった。



採集地は美囊川と加古川の合流点から上流におよそ3km 上流に行ったところである(写真2)。採集地付近の河川敷は、夏期はクズに覆われており、地表の様子はうかがえない。冬場は、枯れ草が多く、また燃やされている。そして、そのあたりは、年に3~4 回程度水に浸かるくらいである。採集地から2.5km ほど下流、加古川との合流点近くに、比較的広い砂地がある。

今後、採集地付近および、美囊川、加古川での生息地の確定をしていこうと思っている。

(Toshiki YOSHIMIZU 兵庫県三木市)

アカマダラコガネ加東市での採集例

山本 勝也

近年採集例が少なく、環境省レッドデータブック、兵庫県レッドデータブックに上げられるアカマダラコガネ *Poecilophilides rusticola* (Burmeister, 1842) の採集記録を報告する。

1ex., 兵庫県加東市上久米やしろの森公園, 12. VII. 2009, 松江萌弥 採集

やしろの森公園内のコナラの樹液に来ていたものを神戸市立北須磨小学校、松江萌弥君が発見、採集した。

本種は、あまり活発には活動しないという印象が筆者にはあったが、本種飼育下の2009年の9月から10月中旬頃までの間、午後3~5時頃、室内飼育の水槽内をととても活発に飛翔する行動を、ほぼ連日観察することができた。2010年1月現在も成虫越冬で飼育中である。

(Katsuya YAMAMOTO 神戸市須磨区)

アオタマムシの県内採集3例

山本 勝也・矢部 正明・矢部 清隆・安岡 拓郎

アオタマムシ *Eurythyrea tenuistriata* Lewis, 1892 の県下での採集例は“大変少ない”とされ、今までに宍粟郡赤西2例、養父郡氷ノ山1例の計3例が記録に上がっている。近年、3 個体の追加採集例があったのでここに書き留める。

1. 1 ♀, 兵庫県佐用郡佐用町船越・瑠璃寺奥の院の西斜面, 10. VIII. 2008, 矢部正明・矢部清隆 採集, 採集者標本保管, モミの倒木に飛来したところを採集

北須磨自然観察クラブ代表の山本勝也氏、同顧問の稲畑憲昭氏とともに、当時閉館していた佐用町昆虫館見学と瑠璃寺周辺での昆虫採集を行っていた。当日は快晴で、猛暑の中登山をして現地に着。西側斜面は様々な木の倒木があった。その中で陽光がよくさしたモミの倒木に産卵に来たと思われる。

2. 1 ♀, 兵庫県佐用郡佐用町船越, 16. VIII. 2008, 安岡拓郎 採集, AM11:30 頃, 晴, こどもとむしの会標本保管

瑠璃寺奥の院裏の巨大な倒木の上で、ルリボシカミキリ2頭と共に採集。

3. 1 ♀, 兵庫県姫路市安富町鹿ヶ壺, 1-2. VIII. 2009, 岩林辰幸 採集, 山本標本保管

古賀督尉氏が主催する昆虫自然体験プログラム“むしむしくらぶ”の2009年度、夏休み“むしむしきゃんぷ”に参加された岩井辰幸君が採集し、筆者の一人、山本に

託された。

○参考文献

高橋寿郎, 1998. 兵庫県のタマムシ (1). きべりはむし, 26(1): 13-19.

(Katsuya YAMAMOTO 神戸市須磨区)
(Masaaki YABE, Kiyotaka YABE 神戸市灘区)
(Takuro YASUOKA 神戸大学昆虫科学研究室)

ハチ北高原でヨコヤマヒゲナガカミキリを採集

西尾 悠誠

筆者は2007年度、兵庫県立人と自然博物館のセミナー「ユース昆虫研究室」の強化合宿において、ヨコヤマヒゲナガカミキリ *Dolichoprosopus yokoyamai* を採集しているの、ここに報告する。



1 ♀ (写真), 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹ハチ北高原小沼付近, 標高 880m, 灯火, 22. VIII. 2007, 筆者採集

本種の成虫は盛夏頃に出現し、ブナに依存するカミキリムシである。そのためブナが自生している地域にのみ生息する。成虫はブナの木に集まる他、灯火にも深夜にかけて主にオスが集まる。本種はブナに依存するカミキリムシで、県下では、氷ノ山、扇ノ山、和佐父溪谷などで得られている(三木 進氏のご教示による)。ハチ北高原には多くはないがブナが自生しているため、採集した個体はハチ北高原に自生しているブナから飛来した可能性が高い。採集した当日の天候は雨、時刻は22時頃だった。末筆ながら、ご教示いただき、報告を勧めていただいた、八木剛氏に深くお礼申し上げます。

(Hisanari NISHIO 神戸市須磨区)

ハラアカコブカミキリの姫路市安富町からの記録

岡田 浩資

ハラアカコブカミキリ *Moechotypa diphysis* (Pascoe, 1871) を姫路市内で確認したので報告する。同市安富町瀬川にある会社・敷地内のホダ木置き場で、2009年3月30日、従業員の喜多村吉孝氏が1頭採集された。氏によると「ホダ木置き場の土場を歩いていたところを拾い上げた」とのこと。近畿及び中国地方から集められたホダ木が置いてあり、本個体は偶然ホダ木について来たものと推測される。以来、2010年2月1日現在、追加個体は発見できていない。ホダ木の重要な害虫だけに、今後も継続して調査する。

「兵庫県のカミキリムシ(2001)」によると、1960年代に伊丹市で多数採集されて以来、県内では記録の発表がないとのこと。また、三木進氏の私信によると、故高橋寿郎氏の未発表のカミキリ目録には、「伊丹市大鹿宮武, 1968」の記録があるだけという。

偶産種としても貴重な個体を快くお譲り頂いた喜多村氏にお礼申し上げる。

○参考文献

廣田嘉正・三木三徳・八木正道, 2001. 兵庫県のカミキリムシ. 104pp.

(Koji OKADA 兵庫県姫路市安富町)

セダカコブヤハズカミキリの低地での採集例

矢部 正明・矢部 清隆

セダカコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber gibber* (Bates, 1873) は、神戸市灘区・摩耶山が基産地の一つだが、その近くの六甲山麓、住吉川中流の登山道にて2頭の♀を採集したので報告する。

1 ♀, 兵庫県神戸市東灘区の六甲山登山道(住吉台から住吉道・石切道へ向かう登山口付近), 3. V. 2007, 矢部正明採集

1 ♀, 兵庫県神戸市東灘区の六甲山登山道(住吉台から住吉道・石切道へ向かう登山口付近), 3. V. 2007, 矢部清隆採集

初夏の昼過ぎ、多くの六甲登山者が行きかう山道の路上でまず♀1頭、しばらく歩いてまたもう♀一頭を採集した。いずれも標高では250mに過ぎず、高台の住宅地(住吉台)にも近いところである。コブヤハズカミキリ類の分子系統を研究されている中峰 空氏の話によると、摩耶山の頂上付近など六甲山系では標高がやや高いところ(600m以上)で採集される傾向があるようだが、このような低い標高のところでは珍しいとのことであったので、報告させていただいた。

(Masaaki YABE・Kiyotaka YABE 神戸市灘区)